

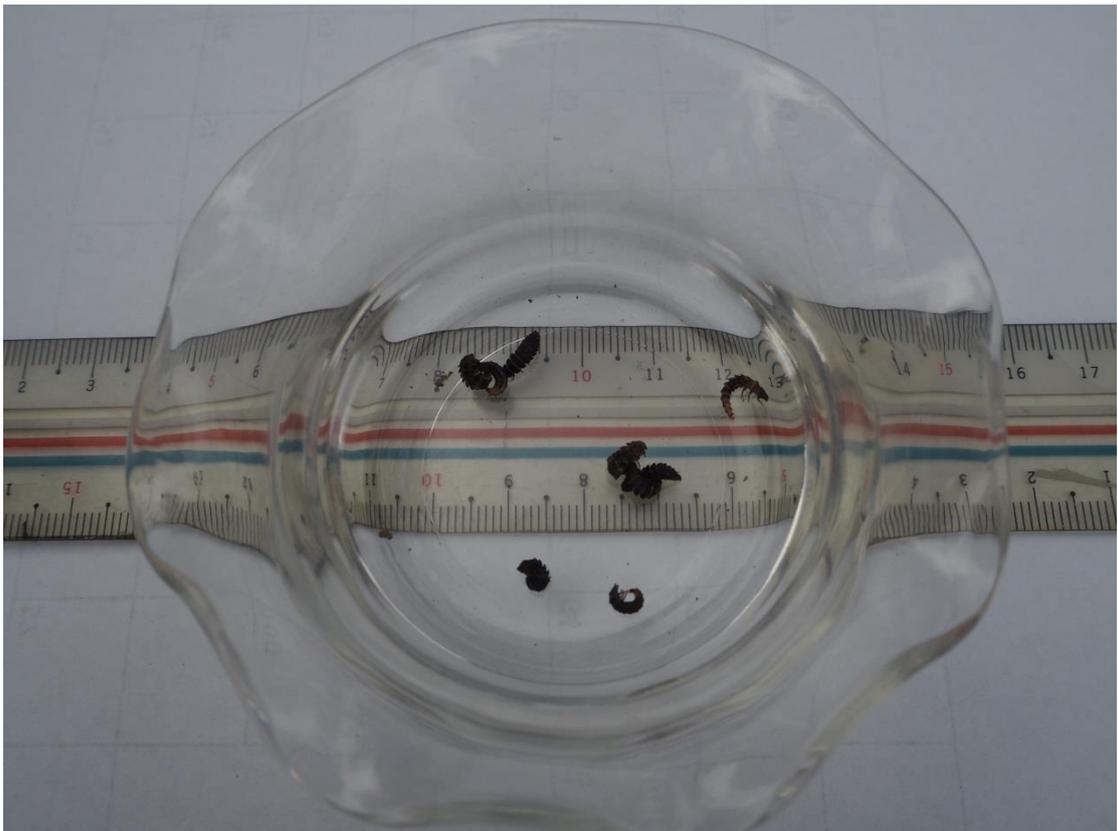
市民が調べる大府の自然

ヒメボタル幼虫調査報告書



横根平子のまちづくりを考える会

私たちは市民の手で
横根平子地区の自然
を調査し、記録して
いこうと思いました



目次

カラー口絵	0
幼虫調査の報告書	1
ヒメボタル幼虫調査参加者レポート	3
参加者の声	6
考える会からのメッセージ	8
今後の課題	10
編集後記	11
参考資料	12



2015年横根平子ヒメボタル幼虫調査の報告

横根平子のまちづくりを考える会 鷹羽 富美子

(1) 調査の目的

横根平子地区は市街化区域でありながら丘陵地に畑が広がり、里山として竹やナラなどの林が見られます。「横根平子のまちづくりを考える会」を2012年に立ち上げ、活動のひとつとして、自然環境について調べる取り組みをはじめました。会員の家で初夏にホタルがみられるという報告があり、種類を調べたところヒメボタルと判明しました。地域住民の情報から他の場所でもヒメボタルが見られることが判明し、調査を開始しました。その結果横根平子の広い範囲でヒメボタルが見られることがわかりました。ヒメボタルは養殖が難しい陸生のホタルで、その生活史は未だ判明しない点が多くあります。今回はヒメボタルの幼虫の生息状況を調べ、少しでも生活史の解明のためヒメボタル幼虫調査を行いました。

私たちは「大府市環境基本計画」の精神に基づき、市民の責務として、大府市がめざす「将来環境像」で目標と掲げる「本市の環境を守り育てるとともに、まちづくりに活かすことを目標として市民が自主的に環境の価値や生活行動と環境保全の関係を理解し、市民・事業者・行政が協働して環境に貢献する行動」を実践するために努力していきたくと考えます。



本調査によってヒメボタルの生態が解明していくことは非常に意義があることだと思います。

(2) 調査方法

- ① フィルムケースのキャップに4.6ミリのドリル穴を3つあけ、ホタルの幼虫が好むエサ(イカ)とホタルの幼虫の足場になるティッシュ1枚をケースに入れ、動物にキャップを開けられないように細く切った粘着テープでキャップを覆うように止めたものを100個用意します。



- ② 1mおきにフィルムケースの穴を外に出すようにして、地中に埋めて落ち葉で覆います。フィルムケースにはあらかじめ短いビニール紐をつけ、それを割り箸に縛り、割り箸も地中に埋め込みます。これは短時間で設置場所を見つけ、また埋めたケースをすばやく回収することが、竹林内の踏み荒らしによる自然への負荷を低減することに繋がると考え、このような目印を使いました。
- ③ フィルムケースは1週間後に回収し、中に入っていたヒメボタルの幼虫の数とフィルムケースの回収時の状況、ケース内のエサの状況などを調べます。なお採取した幼虫はその場に戻します。



(3) 調査場所

会員の竹林 (住所) 大府市横根町中村 4 番地、77 番地

(4) 調査日

11 月 22 日 AM9 :00 トラップ 100 個の設置(約 1 時間)

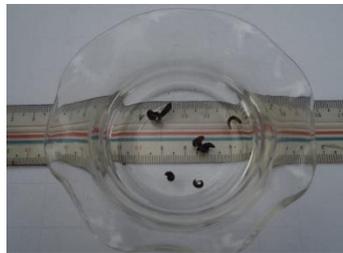
11 月 29 日 PM1 :30 トラップの回収(約 1 時間 30 分)

(5) 用意したもの

フィルムケース、ティッシュペーパー、割り箸、布、ドリル、移植ごて、軍手
ものさし(1m、15cm)、油性マジック、シャーレ、B 紙、ピンセット、はさみ

(6) 調査結果と考察

別紙資料のように竹林の内には確実にヒメボタルが生息することが判明しました。
トラップ 100 個のうち 7 個から 10 匹のヒメボタルの幼虫の生息を確認しました。幼虫の大きさは約 9mm 位、体色は黒色でした。幼虫の生息場所は「竹林の中の腐葉土が多く、斜面になっている所」と考察されます。



(7) まとめ

初夏にヒメボタルの幻想的な光の見られる場所に幼虫が確実に生息し成長していることがわかりました。

これからも初夏のヒメボタル分布調査およびヒメボタル幼虫調査を継続していきたいと思います。

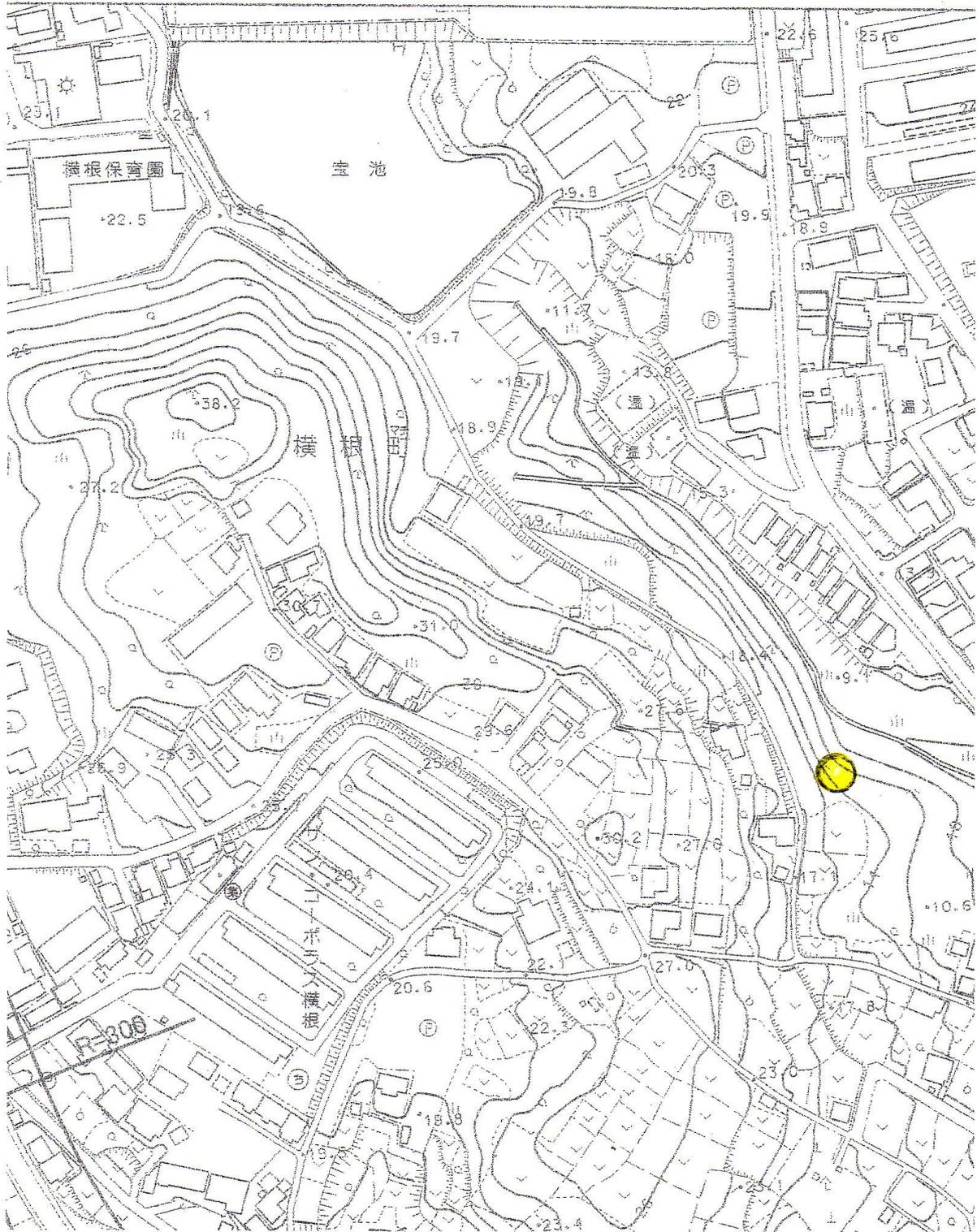
そして隣接した名古屋市では準絶滅危惧種と指定されているヒメボタルを保護する環境づくりを考えていきたいと思っています。

*別紙資料

- 資料① 幼虫調査場所
- 資料② トラップ設置場所
- 資料③ トラップ配置場所
- 資料④ トラップ番号と幼虫の確認数その 1
- 資料⑤ トラップ番号と幼虫の確認数その 2
- 資料⑥ ヒメボタル幼虫調査一覧

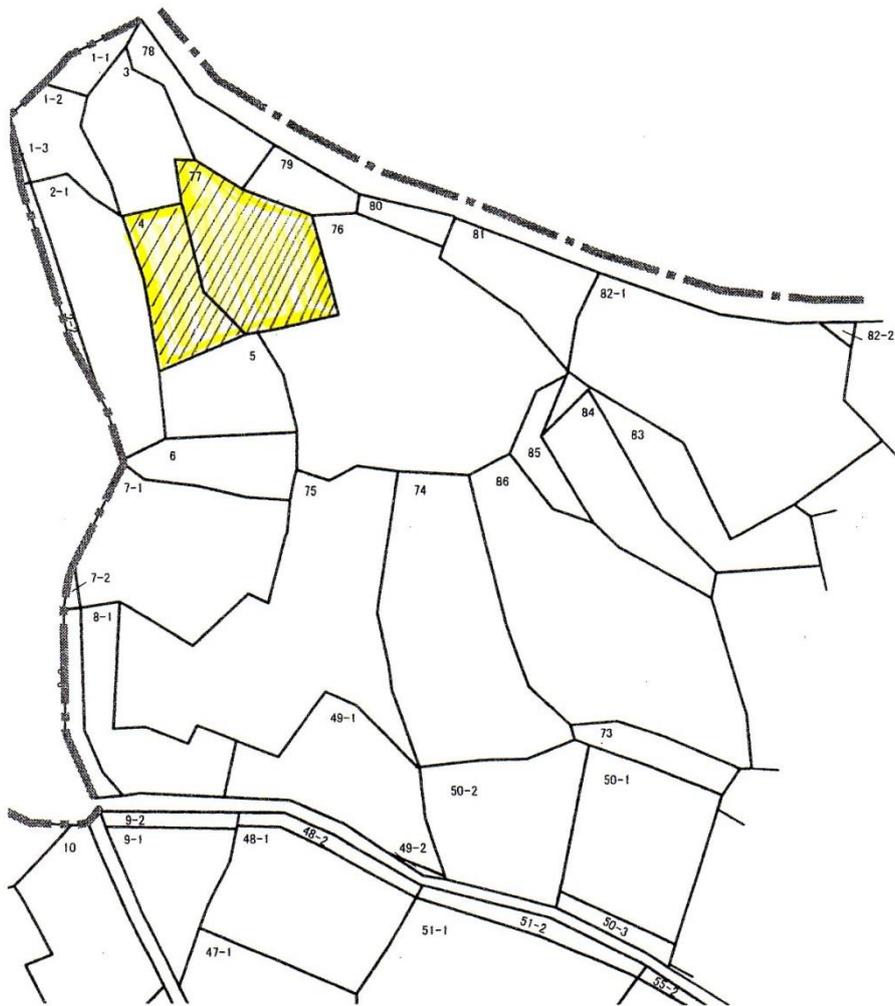
幼虫調査場所

資料①



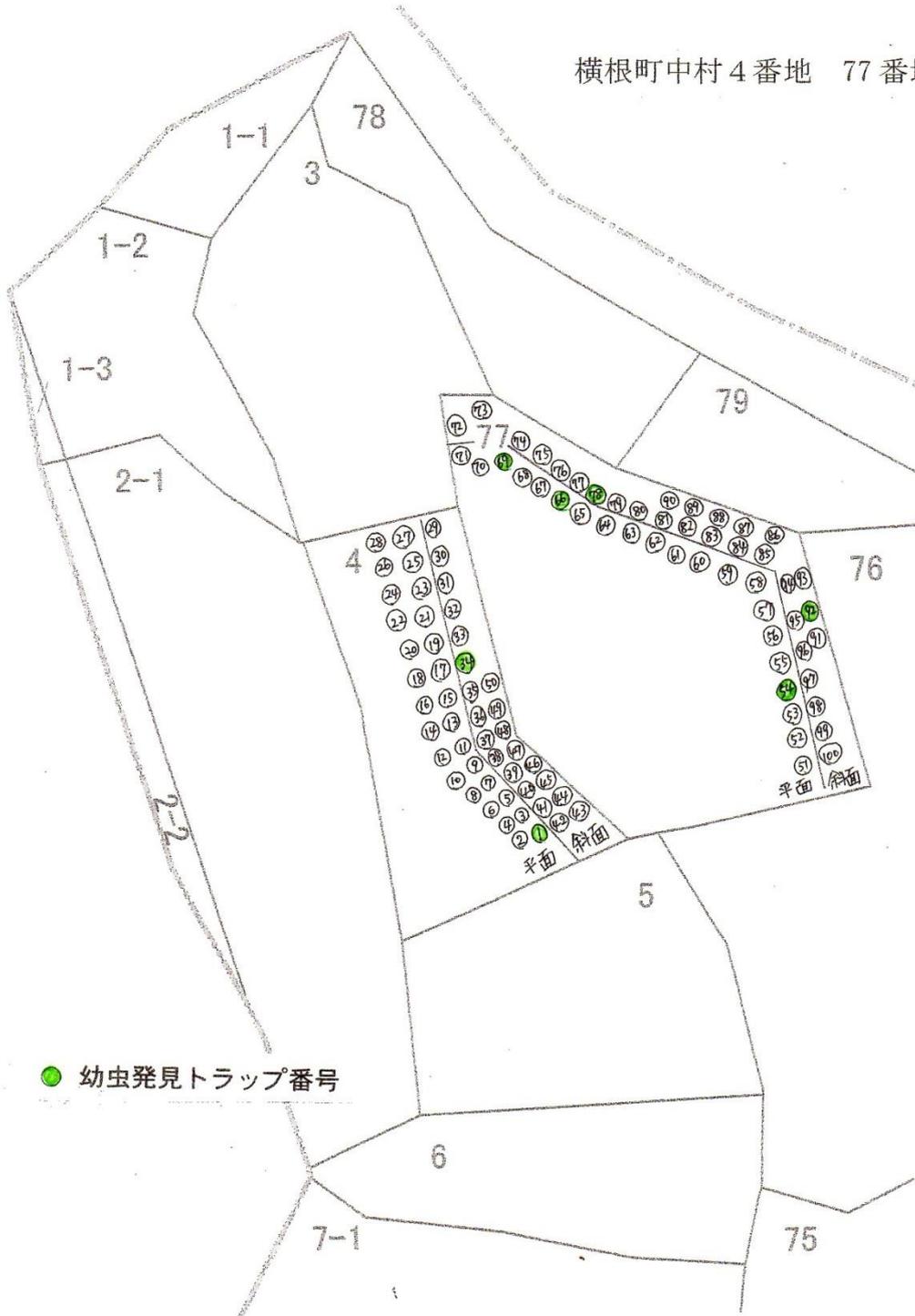
トラップ設置場所

横根町中村 4 番地 77 番地



トラップ配置場所

横根町中村4番地 77番地



トラップ番号とヒメボタル確認数その1

2015.11.29

						50	49	48	47	46	45	44	43	
↑斜面	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
↓平面	27	25	23	21	19	17	15	13	11	9	7	5	3	1
	28	26	24	22	20	18	16	14	12	10	8	6	4	2

大府市横根町中村4番地

1・トラップ(フィルムケース)番号

1・幼虫数

トラップ番号とヒメボタル確認数その2

2015.11.29

↑平面	51	52	53	54	55	56	57	
↓斜面	100	99	98	97	96	95	94	
				91	92	93		

↑平面	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71
↓斜面	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72
	86	87	88	89	90									

大府市横根町中村77番地

1・トラップ(フィルムケース)番号

1・幼虫数

ヒメボタル幼虫調査

2015.11.29 気温 14.0℃

番号	場所	幼虫数	移動	エサ	備考	番号	場所	幼虫数	移動	エサ	備考	番号	場所	幼虫数	移動	エサ	備考	番号	場所	幼虫数	移動	エサ	備考	
1	竹林	○	1			26	竹林	○				51	竹林	△				76	竹林	△				
2	竹林	○				27	竹林	○				52	竹林	△				77	竹林	△				
3	竹林	○				28	竹林	○			ワラジムシ2	53	竹林	△				78	竹林	△	2			
4	竹林	○		×	情報なし	29	竹林	○			ワラジムシ17	54	竹林	△	△	×	ケース損傷	79	竹林	△				
5	竹林	○				30	竹林	○				55	竹林	△				80	竹林	△			ワラジムシ1	
6	竹林	○				31	竹林	○				56	竹林	△				81	竹林	△				
7	竹林	○				32	竹林	○				57	竹林	△			ワラジムシ1	82	竹林	△				
8	竹林	○				33	竹林	○				58	竹林	△			ケース内に水	83	竹林	△				
9	竹林	○				34	竹林	○	1			59	竹林	△			ワラジムシ1	84	竹林	△				
10	竹林	○				35	竹林	○				60	竹林	△				85	竹林	△				
11	竹林	○				36	竹林	○				61	竹林	△			ワラジムシ1	86	竹林	△				
12	竹林	○				37	竹林	○				62	竹林	△				87	竹林	△			ケース内に水	
13	竹林	○				38	竹林	○				63	竹林	△				88	竹林	△				
14	竹林	○				39	竹林	○			ワラジムシ1	64	竹林	△				89	竹林	△			×	
15	竹林	○				40	竹林	○				65	竹林	△			ムカデ1	90	竹林	△			×	
16	竹林	○				41	竹林	○				66	竹林	△	1		ワラジムシ1	91	竹林	△				
17	竹林	○				42	竹林	○				67	竹林	△				92	竹林	△	2			
18	竹林	○				43	竹林	○				68	竹林	△			アリ1	93	竹林	△			ワラジムシ1	
19	竹林	○			ワラジムシ1	44	竹林	○				69	竹林	△	2				94	竹林	△			
20	竹林	○				45	竹林	○			ムカデ1	70	竹林	△				95	竹林	△				
21	竹林	○				46	竹林	○				71	竹林	△				96	竹林	△				
22	竹林	○				47	竹林	○				72	竹林	△				97	竹林	△				
23	竹林	○				48	竹林	○				73	竹林	△			ワラジムシ3	98	竹林	△				
24	竹林	○				49	竹林	○				74	竹林	△				99	竹林	△			ワラジムシ2	
25	竹林	○				50	竹林	○			ワラジムシ1	75	竹林	△				100	竹林	△			ワラジムシ1	

移動 △ 1m以上の移動
 × 回収できず

エサ △ 蓋があいているがエサは残っていた
 × 蓋はしまっているがエサがなくなっていた

ヒメボタル幼虫調査・参加者レポート

(横根平子のまちづくりを考える会 竹田未知留)

「幼虫の生息数を調べることで、ヒメボタルについて理解を深め、データを残すこと」を目的とした今回の調査。動物写真家・小原玲さんにまちを見て頂き、助言いただくと共に、実際の調査には愛知ホタルの会の深谷豊さんに立ち会って頂き、実施しました。

【調査方法】

フィルムケースの蓋に3箇所の穴を開け、中にイカ刺しを入れたトラップを100個用意。会員所有の竹林に、1m四方に1個埋めます。

設置一週間後。トラップを取り出し、中に入っている幼虫を調査します。

トラップ準備 2015年11月21日(土) 晴れ



小動物に荒らされるのを防ぐため、頑丈にガムテープを巻きました。

トラップ設置 2015年11月22日(日) 曇り



試行錯誤しながらのトラップ作りの末、なんとか用意した 100 個のフィルムケース。
ほんのり暖かい薄曇りの中、会員 9 名でトラップを埋めます。
足場の悪い竹林は、落ち葉がふかふかで土には湿り気が。
そこにスコップで少し穴を掘り、フィルムケースをグイッと埋め込みます。
蓋の部分が土から見える程度に埋めたら、上から落ち葉をかぶせて完成。目印の小旗も一緒に立てていくと、1m ごとにピンクの小旗が並びました。

その日は一時間弱で設置終了。
ドキドキしながら一週間を過ごしました。

トラップ回収 2015 年 11 月 29 日（日） 曇り



そして、一週間後。
風は少しあるものの、雨は逃れた曇り空の日曜日。
再び集まった会員 8 名に、会員の子ども達 2 人も加わり、いよいよ回収です。

竹林に入ると、ポツポツと見慣れた旗が。心配していた小動物（タヌキやネコなど？）によるトラップの掘り起こしも少しだけで、トラップはほぼそのままの状態が残っていました。

そうして、次々とトラップを引っこ抜いて無事回収。
いつも青空カフェを行う会員所有の畑に移動し、調査表を広げます。



1～100 まで番号が振られたマス目に、同番号のトラップの中身を手分けして出していきます。

そして、ついにご対面！

そっとフィルムケースを開けてみると、中から黒々とした幼虫が！

図鑑で観た、これぞ「ヒメボタル」！

かつて幼虫調査を行ったことがある深谷豊さんに、確かにヒメボタルの幼虫だと確認してもらいました。



もちろん、ゾウリムシや他の虫が入っていたり、イカがあるのみで何も検出できないトラップが大半でしたが、結果は 100 個のトラップ中、10 匹のヒメボタルを検出。発酵気味の強烈なイカの臭いに若干気持ち悪くなりながら、それでも喜びを隠せない会員達でした。

幼虫調査 参加者の声

- ・幼虫は思ったより大きかった。
(回収参加 3歳 男の子 大府市横根町在住)
- ・竹林の中に入るのが、探検みたいで面白かった。
(回収参加 5歳 男の子 大府市横根町在住)
- ・自然っていいですねと改めて実感しました。
(回収参加 30代 女性 東京都在住)
- ・埋めた所から参加したわけじゃないけど、幼虫がいた時は感動しました。
(回収参加 30代 女性 東京都在住)
- ・ヒメボタルの幼虫を初めて見ました。
1センチぐらいで動いている。本当に彼の地に生息していることを実感しました。
10匹ほどでしたが、とても愛おしく思えました。
もとの地に放ちましたが、無事に成長して来年は美しくひかってほしいと思いました。

<反省> フィルムケースにイカを入れてティッシュを入れ、ふたをして、他の動物に取られないようにガムテープを3重、4重にしましたが、その必要はないのでは？

(設置・回収参加 60代 女性 大府市横根町在住)

- ・小原さんに勧められてやってみたものの、普段、調査などには縁遠いのでかなり不安だった。トラップは、イカはこれでいいのか、埋め方は？すべて他の動物に荒らされて終わるのでは？など、何が正しいのか、こんなので本当に幼虫が入ってくれるのか、開けてみるまで本当に半信半疑だった。
でも、幼虫がいる時期は今がベストとのことで期限も決まっているし、たとえ狭い範囲でトラップが少なくてもとりあえずやってみようと、小原さんに背中を押されながらカメラで借りてきたドリルでフィルムケースに穴を開けた。

電動ドリルを使うのも初めてで、小さなフィルムケースの蓋に3つ穴を開けるのにかなりビビった。手に穴が空くのではと思ったが、そばにいた主人が見かねてコツを教えてくれたのでどうにかできた。と同時に、小原さんの講演時に聞いた、宮崎駿さんの言葉「半径300mの自然は住民が守る」というのだけを繰り返し念じて、前へと進んだ。私にとっては、かなりの暗闇だった。

本当に本当に準備期間のはじめの方は不安しかなかったが、いざ設置となると、他のメンバーの力添えや実際に調査を行ったことがある深谷豊さんも来てくださってスムーズにできた。

そして一週間後。回収したフィルムケースを寒空の下、開けてみると、見慣れたダンゴムシやゾウリムシではない、まさにこれか！という黒い蛇腹状の虫が出てきて、泣き出したい程、嬉しかった。感動した。

よくぞいてくれた。そして、よくぞイカ目掛けてトラップに入ってくれたと、一匹一匹にお礼を言いたい。

この、1センチ近くもありそうなわりあい大きな幼虫が、5月にはそれよりも小さくて固くて、おしりが赤くて光るホタルになるのかと思うと、不思議でならない。

小さな容器に集められた 10 匹の幼虫は、思わず手のひらで包み込みたくなるほど愛おしく、竹林もまた、このホタルが気持ちよく生きる為のとても大切な場所なのだと思った。と同時に、他にも色々な生き物や植物、たくさんの命が自然の中にはあるんだなぁと思いました。

(設置・回収参加 30代 女性 大府市横根町在住)

・<二つの感動>

20年ほど前から屋根裏部屋でホコリをかぶっていた約 100 個のフィルムケースが役に立った。こんな形で役に立つとは想像もできなかったことに感動！

竹藪の土の中にヒメボタルの幼虫が生息していた。身近な自然界に普段気づかない生物世界が存在していることに感動！

(設置・回収参加 60代 男性 大府市横根町在住)

- ・ 2年前に初めてヒメボタルを見た時、そのほのかな輝きに感動をしました。もっとヒメボタルのことが知りたいと思い、その年から生息調査をして「ヒメボタル里山マップ」の作成をしました。そして今回、ホタルの幼虫調査をして竹藪で生きているホタルの存在を自分の目で確認できたことは貴重な体験でした。もし「横根平子のまちづくりを考える会」のメンバーがいなかったら、ここまでの調査はできなかったと思います。メンバーの皆さんに感謝します。そしてアドバイスをいただいた多くの皆さんに感謝しています。ヒメボタルは飼育の難しいホタルですし、良い環境でしか生息できないと聞いています。このすばらしい自然からの贈り物をいつまでも守りたいと思いました。

(設置・回収参加 60代 女性 大府市横根町在住)

- ・ 人間はヒメボタルの光より「金」の^{かね}ひかりに負けてしまうのかな。ヒメボタル、風前のともしびか。

(設置・回収参加 70代 男性 大府市横根町在住)

- ・ 100 個のフィルムケースを埋めた時に 1つか 2つ入っていれば上等と思っていたが（ひとつも入ってなくても仕方ない）、10匹もいたと言うことを聞いて驚いた。幼虫が育つ環境ができていることにも感動した！この平子地区だけでも何か所か生存している。何としてもこの環境を保護していきたいものである。

(設置参加 60代 女性 刈谷市在住)



考える会からのメッセージ

<60代 女性>

私たち大人が次世代の子どもたちに残していかなければいけないことがあると考えます。

子どもたちが健康な体、心豊かな大人になるには

身近にいつも遊んでいる所に自然やいろいろな生き物がいることでは。

きれいな空気、水、土、安心して食べられる野菜がある、心が落ち着ける美しい場所ふるさと、変わらないふるさたがあることでは。

私たち大人が子どもの頃、遊んだ頃を思い出してください。私たちは自然と一緒に育ってきて今振り返るといっばい恩恵をもらっていた。これからの子どもたちにも伝えたい。

<60代女性>

“山にいだかれ 眠る”

平子の緑の山は地元の方々は普段は感じていなくても、もしこの緑がなくなったら悲しいですよ。

<60代女性>

区画整理の予定地に準絶滅危惧種に指定されているヒメボタルがいっぱい出るんです。造成したら皆死んでしまいます。どうしたら助けることができますか？

いいアイデアはありませんか？

<60代男性>

2010年頃だったと思います。娘から突然の電話「11時すぎにたくさんのホタルが飛んでいる。」とのこと。

私の認識ですと、ホタルは川や田の近くの水、清らかな所に住み、カワニナをえさにしていうという乏しい知識。

「まさか」と思い、5月の夜遅く出かけました。今日はもう飛ばないのかと思ってあきらめかけた時……

小さなほのかなあかりが二つ三つ四つ…… 本物のホタルだ！

竹やぶと雑草の間のやや湿っぽいあたり。なぜこんなところに。

竹やぶのホタル。不思議な光景だった。

後日、元中学校の理科教師に尋ねたところ、「ホタルにもいろいろな種類があって、川がなくても湿地でなくても、湧き水がなくても生息できる小型のホタルでヒメボタルと言うんだ」との話。「竹やぶがあれば、そこにヒメボタルが住んでいるのではない。おそらく豊かな自然環境に恵まれているんだ。そうとうめずらしいことだよ。ぼくも一度見に行ってみたいなあ。」と話していました。

大府市内に「ホタルが住む里」があることがすばらしいことと思いました。

ヒメボタルを見た後、キジの親子が道を渡るところやコゲラのコンコンコンと木をつつく音などを聞くこともできました。



<60代女性>

100個のフィルムケースを埋めた時に1つか2つ入っていれば上等と思っていたが（ひとつも入ってなくても仕方ない）、10匹もいたと言うことを聞いて驚いた。

幼虫が育つ環境ができていることにも感動した！この平子地区だけでも何カ所か生存している。何としてもこの環境を保護していきたいものである。この地区はウグイスの鳴き声で目がさめ、駐車場にキジの親子が並んで歩いています。畑ではミミズがたくさんいて、黄色に黒、黒に赤2つ入ったテントウ虫がアブラ虫を食べています。ヘビの穴もいくつか開いています。エサがたくさんあるのだと思います。トカゲもいろいろな種類がいます。

<30代女性>

実際に竹林に入って、土をさわってみて、「たくさんの生物が共存して、はじめてヒメボタルも生きられる」ということを実感しました。

ヒメボタルはまさに「ひとつの光」で、豊かな自然環境の存在を照らし出してくれます。その光をちゃんと受け止めて、残していきたい。

自分がこの土地で育って、自然からたくさんの恩恵を受けてきたし、それを子どもたちにも伝えたい。

<60代男性>

継続的に自然観察会を開いたり、ヒメボタルの生態を調べていきたい。

<60代女性>

私の横根平子の一番好きな所は、天上（てんじょう）と呼んでいる小高い丘です。ここまで上ってくると、遠く南アルプスの山、刈谷ハイウェイオアシスの観覧車、新幹線、刈谷の花火などが眼下に広がり、日々の細々とした思いやささくれも吹っ飛びます。目を閉じて感じる空気、季節の匂い、鳥の声、木々の息遣いを感じて、自分たちにできることは何か、改めて感じずにはられません。

皆さんも、ぜひ天上の丘に上って、感じてみて

<60代女性>

ヒメボタルが生き続けている環境は私たち人間にとっても優しい環境です。そんな自然環境と共生できるまちづくりをしていきたい。



今後の課題

ヒメボタルの調査を始めてもう2年半になります。きっかけは会員の家の裏でホタルを見つけたところから始まります。その年は近所での目撃証言を集める程度でした。

次の年には目撃証言をもとに横根平子地区のどの辺りで見られるか、何匹くらいいるかを観察してみました。この時、竹林の奥でほのかに輝くヒメボタルを多く見ることができました。

そして昨年は愛知ホタルの会深谷豊さんの指導のもと、二週間近くにあたって毎日横根平子地区を歩いてどこで出るか、何匹くらい見られるかを調べ、里山マップにまとめました。

今回は実際に竹林の草むらの中に本当にホタルがいるのか確かめるために幼虫調査を行いました。実際、竹林の中でヒメボタルの幼虫を発見する事ができました。

ヒメボタルは陸生のホタルで人工繁殖が難しいといわれ、その生態も詳しくはわからない部分があると言われてしています。

また、自然に近い環境でなければ生存しない生物とも言われ、名古屋市をはじめ準絶滅危惧種に指定する自治体もあります。ヒメボタルが存在できるということは他にもいろいろな生物が住める恵まれた場所であるということを実証してくれています。

これからも毎年継続的に初夏にはヒメボタルの分布状況調査、秋には幼虫調査をしていきたいと思えます。

また、先進的にホタルの保護や研究している団体、個人と交流することでヒメボタルの保護を図りたいと考えます。

いま私たちは「ふるさとの森」計画と銘打って、この地区でヒメボタルを保護することはできないか思案中です。竹林ゾーンをヒメボタルの里とし、ヒメボタルの苦手な光を入れないために周りを常緑樹で囲うなど様々なゾーンをつくることを考えています。

私たちのまちがヒメボタルと共存できる里になることを節に願います。



「ふるさとの森」イメージ図

編集後記

すべての始まりは、11月1日に開催した「動物写真家・小原玲さんに学ぶ ヒメボタルのすべて」講演会での小原さんの一言でした。

「本当にヒメボタルが存在するかどうか、データを取った方がいいですよ。それも幼虫調査ならその存在は確実です」。

正直、メディアにも登場する有名な写真家の方をお招きしての講演会開催だけでも、10数名程の横根平子のまちづくりを考える会メンバーにとっては一苦勞。時期的にすぐに動いた方がいいという調査に乗り出すのはかなりハードルが高かったのですが、どうにか気力を奮い起こし、時間を捻出し、知恵を絞って調査に乗り出しました。

暗闇の中でパッ、パッ、パッと舞う、儂くもあたたかい光一。

ヒメボタルの群集を初めて見たのは去年の5月下旬。深夜0時の竹林、主人と5歳と2歳の男子と一緒に。あちらこちらで点滅するその光はとても美しく、「地元に住んでいながら、なんで今まで気が付かなかったんだろう」と思うと同時に、私達が知っていようがまいが、ずっと前からこの時期になると光を放ってきたんだという自然の揺るぎなさ、生き物の不思議さが強く心に残りました。そして、この光を見ることができありがたさをひしひしと感じ、「横根平子のヒメボタルを残したい、守りたい」と思いました。それこそが、慣れない幼虫調査を手探りで行った原動力です。

幼虫が最も採取できそうな11月下旬から12月上旬の調査を見込んで、急ピッチで準備を進める中で、「トラップはこれでいいの？ガムテープは何重巻きにするの？埋めるのってどのくらいの深さ？」など、まさに手探り状態で模索する中で、「守りたい」という想いだけを頼りに、文字通り一步一步進んできました。

それ故、運命のトラップ回収時、フィルムケースから出てきた黒々とした幼虫を見た時の感動は、言葉ではそうそう言い表せません。「よくぞいてくれた、トラップに入ってくれた」と、10匹の幼虫が入った器を両手で包んでなかなか放せませんでした。最終的には、元の地に返したのですが、この10匹がもたらしてくれたデータを、広くまちの人や、市長さんや、市役所の方に読んでもらおうと報告書にまとめました。

アドバイスを頂いた小原玲さんをはじめ、愛知ほたるの会の深谷豊さんにはトラップ設置・回収にも加わって頂き、導いてくださいました。また、会のメンバーや、調査に関わってくださった地元の方、活動に賛同し、応援してくださった方々など、多くの協力を得て、この調査は行われました。この場を借りてお礼申し上げます。と同時に、ヒメボタルが繋いでくれたこの出会いを大切に、今後も「ヒメボタルがいる横根平子」を残すために、活動していきたいと思えます。

横根平子のまちづくりを考える会



参 考 资 料

ヒメボタル分布図

2015



1:2,500

今の世の中で一番価値があるのは、
子ども達が感動する風景です。

横根平子にも
生息。
貴重なヒメボタルに
ついて解説!

難しい
ホタルの
撮り方も
伝授!

参加者全員に
横根平子
里山マップを
プレゼント!



大府市横根町平子付近に生息する「ヒメボタル」。その生態や魅力について、ホタルにも詳しい動物写真家・小原玲さんに語っていただきます。幻想的で美しいホタルについて学ぶと共に、貴重なヒメボタルを守るために私たちができること、一緒に考えましょう。

横根平子のまちづくりを考える会 特別講演会



小原玲さんに学ぶ、
ヒメボタルのすべて

2015年 11月1日(日) 10:00~11:30

場所 おおぶ文化交流の杜
allobu(アローブ)2階会議室
愛知県大府市終山町六丁目150-1

会費 500円 (中学生以下無料) 対象 一般 (定員50名)

10月16日(金)10:00~販売受付開始

●チケット購入方法・申込方法・お問い合わせ

電話/FAX 0562-46-4380 鷹羽(たかば) Eメール yokonehirako@yahoo.co.jp
お電話、FAXまたはメールにて受付いたします。

主催 横根平子のまちづくりを考える会

<http://yokonehirako.jimdo.com/>

動物達と真摯に向き合うカメラマン!

動物写真家。1961年東京都生まれ。報道カメラマンからアザラシの赤ちゃんとの出会いを契機にマナティ、プレーリードッグ、シロクマなどを撮影。20年以上に及ぶカナダの取材を通して、地球温暖化による流水の異変を目撃、それを伝える活動を続けている。また、12年間にわたりホタルの撮影を継続中。

著書、写真集に「流水の伝言-アザラシの赤ちゃんが教える地球温暖化のシグナル」「ほたるの伝言」(教育出版)、「黄 Light of a Firefly」(ワニブックス)など多数。「夢の扉-next door」「奇跡の地球物語」「天才志村どうぶつ園」などテレビ出演も多く、NHKハイビジョン特集「ホタル舞う日本-ホタル前線に行く」では案内人を努めた。小原玲(おはら れい)



講演会チラシ

ヒメボタルと生きる

あす大府 自然考える講演会

全国で生息地が減っているヒメボタルを通して、地域の自然やまちづくりを考える講演会が十一月一日午前十時

た。(長谷部正)

◇各部門の優秀賞の皆さん
小学生 伊山加純(緑陽小3) 石井賢由(名和小5)▽中学生 伊藤綾加(加木屋中1) 扇谷継斗(富木島中2)▽高校生 および一般 風間千世(名和町) 志賀伸之(富貴ノ台)



賞した皆さん=東海市役所で

講演会は、ホタルに詳しい動物写真家の小原玲さんが「ヒメボタルのすべて」と題して講演。ヒメボタルが生息できる環境の保全などについて考える。

土地区画整理事業が検討されている同市横根町平子地区の住民有志でつくる「横根平子のまちづくりを考える会」の主催。「身近な自然を見つめ直すきっかけに」と参加を呼び掛けている。



里山マップなどを手に講演会参加を呼び掛ける会員 大府市役所で

考える会は二〇一二年五月、「自然と共生したまちづくりの勉強会」として住民十五人で発足。自然観察会や区画整理の学習会などを定期的に開いてきた。ヒメボタルの生息を確認し、愛知ホタルの会会員に調査を依頼、地区内の動植物などと合わせて紹介する里山マップも作製した。講演会は会費五百円(中学生以下無料)。◎考える会事務局 〇五六一(46) 4380 (石井宏昌)

2015年10月31日(土) 中日新聞 知多版 掲載

2013年6月発行
横根平子のまちづくり通信
創刊号
横根平子のまちづくりを考える会

横根平子ってどんな所? 区画整理でどうなるの? コミュニティって何だろう? そんな疑問を皆さんと一緒に考える為「横根平子のまちづくりを考える会」では様々な情報をご提供します。目指すは「道の通ったあたにかいまちづくり」。代々受け継いだ大切な土地をどう未来に託すか、また自分たちが住むまちをどんなまちにするか、皆さんが考えるきっかけになれば幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

私たちのまちは、こんなまち
昨年の春、横根平子のまちを歩きました。(2012.4.11撮影)

風情豊かな竹林の小道。抜けると宝池、大府東高校、福原保育園へ。鳥のさえずりが耳に優しく、春には桜も開花します。

緑豊かなまちの良さを再認識

美しく整えられた畑。横根平子には畑も多く、皆さん畑仕事を情を出されています。支社の定方とついでにも工夫されていて、その技術も受け継いでいきたいと思います。

竹林から宝池の間の道沿いに、歴史的な用水路を発見。レンガ造りになっており、かなり貴重なものようです。

まちづくりは、今

1周年総会及び、記念学習会「区画整理を知ろう」を開催しました。(2013.5.12-18)
会の1年を振り返りつつ、これからへー。

5月12日、まちづくり会の1周年総会が行われました。当日は12名程の方が集まり、今までの活動を振り返ると共にこれからの課題も話し合われました。地域の方にどうアピールし、コミュニケーションを図るか、区画整理についてどう理解を深めかなど、多角的に対応していく方向で話がまとまりました。私たち「横根平子のまちづくりを考える会」は、大府市民活動団体としても登録し、定期的に勉強会やイベント等を行っています。会員は随時募集中ですが、「課題と一緒に考える」という姿勢でどなたでも気軽に参加して頂ければと思います。

12年度活動報告より抜粋

- 5月6日 設立総会を開催
- 5月15日 大府市役所都市計画課区画整理室訪問 設立あいさつ
- 5月26日 5月の集い「さつまいもを収穫しよう」
- 9月30日 9月の集い「さつまいもを収穫しよう」
- 11月11日 11月の集い「秋のフィールドワーク」
- 2月20日 会メンバーの住居部分の区画整理計画地区からの除外要望書提出

その他、月1回会会を開いて話し合いを行う

名古屋市長委員・中志段味住民参加でまちづくりを考える会代表
野田幸子さんが語る、区画整理のホント

お話ししてくれた名古屋守山区の区画整理地区内で農業を営む野田幸子さんは、人々につけて面白い農業のおばちゃんというだけでなく、強い信念と奮力にも掛け行動力を持ったステキな方でした。ご自身の地域は区画整理後、固定資産税が6倍以上跳ね上がり、地域のコミュニティが崩壊の危機にあるなど、区画整理の現状や農業の大切さをお話しされ、私たちの抱える問題にもアドバイスくださいました。日本農業もろもろについて「TPPが進展すれば、半農半職には難死が待っている」という警告が衝撃的でした。農業をするには農地が必要で、そして、人口が減っていくのに農地が必要なの。野田さんからは、地道に知恵を絞って少しずつ現状を変えていくこととする姿勢が感じられ、モットーにされている「Think Global Act Local」-視野は広く行動は足元から-を実践されている方でした。

野田さんについて詳しくは... 野田幸子 区画整理 編集

「横根平子のまちづくりを考える会」では、定期的に勉強会やイベントなどを行っています。勉強会は主に区画整理について、イベントは皆さんが参加できる楽しい企画を考えています。告知は随時行いますので、ご興味のある方はどなたでもご参加ください。また、ご意見、ご要望などありましたらご連絡ください。

問い合わせ先 横根町平子 農福 0562-46-4380 横根平子のまちづくりを考える会 編集



子どもたちも夏休みに入り暑い日が続きますが、皆さんお元気ですか。多くの木々に囲まれたこのまちは、朝晩はひんやり心地よく、自然の恵みのありがたさを感じずにはいられません。そんなまちなぎや区画整理について、今回もお伝えします。

私たちのまちは、こんなまち

ホタル舞う、豊富な自然環境。

幻想的なヒメボタルが出現。
5月下旬、加納家裏の畑に数匹のホタルが現れました。頭を取っていたので決めますが、陸生ホタル生態研究会の方の話によると、大きな、出没时间などから「ヒメボタル」ではないとのこと。その後、宝達付近にも出現しました(右の地図参照)。

ヒメボタルってどんなホタル?
日本に生息するのは主にゲンジボタル、ヘイケボタル、そしてヒメボタル。ヒメボタルは幼虫時代も森や林で暮らす陸生ホタルです(ゲンジとヘイケは小川や田んぼなどに住む水生ホタル)。カタツムリなどを食べる為、適度な湿度で、ある程度手入れされた林道沿いや草地に生息します。ただ、近年、開発や薬剤散布などで絶滅が危惧されているものも。発生時期は5月下旬~6月上旬、2時前後(地域によって異なる)です。

貴重な種であることに変わりはない。
さらに森岡自治区環境部の吉宮さん(ヘイケボタルを養殖し、毎年健康の森で鑑賞会を開催)にもお話を伺いました。
●絶滅危惧種ではないもの、貴重で保護すべき。
●環境保全が第一で、区画整理が行われれば絶滅する。
●ヒメボタルの種は飛べないので、開発されると絶滅する可能性が高い。
●陸生ホタルは飼育が困難で人工的に繁殖させるのは難しい。

流星群を見るなら、横根平子の天上(坂の上)!
来る8月12日(月)22時頃から13日(火)夜明けまで、ペルセウス座流星群が出現予定です。夏休みの思い出にぜひ。

横根平子のまちづくり通信 第2号

まちづくりは、今

シリーズ区画整理① 区画整理とは?

今回から、聞き慣れない「区画整理」のあれこれについてご説明します。正式名称=「土地地区画整理事業」(以下、「区画整理」と略します)。区画整理の「区画」とは「土地地区画」のことです。区画整理はあくまでも土地についての事業であり、土地地区画の変更や道路、公園、調整池や緑地などの公共施設の新設又は変更を行うための事業です。

大まかに言うと、土地の権利を整理して区切っていくのが区画整理です。区画整理後は「今、この地点にいて、こちらの地点に移りなさい」とか「今、〇坪の権利を持っているが、それを●坪に変えます」ということが起こります。ところで区画整理というものは、もともとまちづくりのための「技法」もしくは「手段」です。区画整理そのものが目的ではなく、大事なことはどんなまちづくりをしていくかです。横根平子のまちづくりにて区画整理はどのようなものか考えながら、区画整理についてこれからシリーズで書いていきますので、読んでください。

このまちでは、どこで区画整理が行われるの?

横根平子地区では今までに何度も土地地区画整理計画が持ち上がりましたが、地権者の同意が得られず今日に至りました。しかし昨年「横根平子地区発起人会」により、地区内の居住地域の多くを除いた区域縮小案が提案されました。今回は縮小地域の地権者の仮同意が得られ、今、土地地区画整理の事業化に向けて計画が進んでいます。

今後、地区界測量が行われます。

Q1: 何のための測量なの?
A: 準備委員会が区画整理予定地とその他の地区を明確にするための測量です。
Q2: 地権者は何を求めるの?
A: 立会いをします。本年2月吉日付けで関係地権者に通知がありました。
Q3: 立ち会う際の注意点は?
A: ①本人又は代理人が必ず立ち会うこと。そうでない、一方的に境界を設定されることもあります。②測量図等の証拠書類。又は先祖から伝承されたのり尻、のり上の境界を確認し、境界を主張しましょう。
Q4: 境界に不備がある場合はどうするの?
A: 地区界承諾書に署名捺印しない。境界杭の設置はさせないこと。
※土地入札入札の場合法的罰則がありますが、隣接者視察報告や地区界承諾書の署名捺印署名、境界杭の設置拒否の罰則はありません。※まちづくりに関する法的罰則の発覚です。

問い合わせ先 鷹羽 0562-46-4380 <http://yokonehirako.jimdo.com/>
横根町平子 加納 0562-47-2595 横根平子のまちづくりに考える会



「このまちなぎって何?」と考えた時、歴史的遺産や貴重な自然を再認識することで、まちなぎの魅力はさらに増し、特長が浮き彫りになるのではと私たちは考えます。今回はそんなまちなぎの魅力が大特集!さらにシリーズ区画整理のテーマは「減歩」。よく聞くとドントの所は...? そんな区画整理用語について解説します。

私たちのまちは、こんなまち

どれもこれも、貴重な宝です!

長年このまちに住んでいても、気付かないことがこんなにあったなんて!そこにはこのまちと人々が有った歴史が、想いと繋がっています。貴重な遺産として調査が待たれます。

用水路
宝池から明神川へ流れるレンガ造りの用水路。農業用の産業遺産と思われる。貴重な遺産として調査が待たれます。

ヒメボタル
5月下旬~6月上旬の9日調査しただけで延べ130匹ほどを鑑賞!「愛知ホタルの会」会員の深谷さんによると「その名の通り、小さくて可愛らしいヒメボタル。メスも飛べないことから生息地が限られ大変貴重です!」とのこと。来年は深谷さんも調査に加わってください。みなさんも来年ぜひ一緒に幻想的な光を楽しみましょう!

よじのなかみへし 藤井宮御酒瓶子 出土地
なんと!県の指定文化財にもなっている古希酒焼。「藤井宮大明神 御酒瓶子」上へらで書かれている大変貴重なもので、鎌倉時代の作。歴史の重みを感じます。

まちづくりは、今

シリーズ区画整理④ 減歩(げんぷ)

土地を「無償」で提供。

公共施設(公園・道路・緑地など)や保留地(事業費捻出のために売却する土地)を生み出すために、地権者が土地を「無償」で提供することを「減歩」と言います。つまり区画整理をすると減歩によって持っている土地の面積は必ず減ります。

なぜ減歩は無償になるの?

A: それは「土地の価値」が大きく関係しています。「区画整理の前までは、土地全体の価格・価値は変わらないというルールがあります。区画整理をすれば、道路が広がるなどで生活が便利になると仮定し、「土地評価」が上がります。宅地の価値は上がるという前提で成り立っています。つまり面積が減っても坪単価が高いため、区画整理前の土地の価値と同等になると考えられます。

例えば

区画整理前	区画整理後
元々持っている土地 坪数: 100坪 価格: 坪20万円	区画整理によって地価が上昇し、坪25万円の地価を課せられました。 坪数: 80坪 価格: 坪25万円
区画整理前 100坪 × 坪20万円 = 2,000万円	区画整理後 80坪 × 坪25万円 = 2,000万円

この場合、20坪が減歩されても土地全体の価値は変わらないという考え方で減歩が「無償」で行われることになります。また、減歩率は20%となります。

☆なお、近年大府市で行われた区画整理の減歩率はおよそ40~50%です。つまり、元の土地の半分程度を提供して行われます。

減歩によって小規模農家は農業を続けられなくなる?

取に50%の減歩を受けて、地の面積を50%削減されたします。すると収穫量は地の面積に比例して半分になります。それに加え、地価が上昇すれば税金は高くなり、負担は高くなります。これは農業を続けていくことは難しくなるでしょう。区画整理では「土地を売ったための整備」をしたい地権者が前提ですが、「農業をそのままとする」「そこにそのまま住む」という地権者がいるはず。それらの地権者に配慮して農業を続けられるように、また住み続けられるように、土地の面積を変えず土地の価値を変わらないという考え方があっていいのではないのでしょうか。

問い合わせ先 鷹羽 0562-46-4380 <http://yokonehirako.jimdo.com/>
横根町平子 加納 0562-47-2595 横根平子のまちづくりに考える会

横根平子のまちづくり通信 第7号

2015年6月発行

横根平子のまちづくり通信

横根平子のまちづくりを考える会 vol.9

いき目の目で考えると、ゴトジした梅雨も恵みの雨。そんな自然の息吹が感じられるのも、このまちの魅力のひとつです。今回の注目は大府市役所環境課、都市計画課にも報告した「ヒメボタル」の観察。その数なんと758匹また、4周年を迎えたまちづくりを考える会として、今の思いや方向性を伝えたい。

私たちのまちは、こんなまち

5/4 (月・祝) **雨にきらめく、新緑散策。**
春の自然観察会と青空カフェ開催!

春雨じゃ、濡れてまいろう。
参加者は十数名でしたが、雨も時々ぱらつ程度。自然観察指導員Tさんの話もたっぷり聞いて、こんな楽しい会になりました。

子ども達に伝えたい、草花あそび。体にキムグラをつけたら、たんぽぽの葉やシービーで草笛を鳴らしたり、草花で遊ぶ時間も大切に引き継いでいきたいです。

ヒメボタル観察!
このヒメボタルが発見された! ヒメボタルの生息地

いけるのこの自然は、人間が手で触れるのではなく、あやの暮らしや自然と共に生きていくことこそが大事。

高の整備にしても区画整理にしても、どこのまちも自分たちの手や足で整備をしなければならぬ。それでいいからいい。『このまちも、自分たちの手で守る』(Tさんによる発言です)。外資から行うとそれが難しくなるので、自分たちから守っていきましょう。

里山マップ作り、スタート!
これまで4回行った自然観察会では、様々な野鳥や植物を再発見することができました。そのいき目の道を載せた「里山マップ」作りが着手。ご期待ください。

5/13~5/28の夜間、累計758匹ものヒメボタルを観測しました。

まちづくりは、今

このまちの未来のために。まちづくりを多角的に考えます。

6/18 (土) **4周年総会開催**
今までの活動を振り返りながら、これからのまちづくりや、自分たちのあり方について思いを深めました。

区画整理事業がきっかけで、出会うことになった人たちが出会い、活動が始まりました。今まで地域の環境にあまり関心なかったけれど、身近な自然の大切さに気付かされ、ヒメボタルの存在を知ることができました。未来の地域社会に何を伝えていくのか、より多くの人々と関わり、一緒に考え、未来を見つけてゆきたいです。 横根平子のまちづくりを考える会 代表 藤羽麻平

2014年度活動報告より抜粋

5月6日	「春の自然観察会と青空カフェ」
6月15日	3周年総会
6月15日	ヒメボタルの話の懇話会
6月22日	古窯の話の懇話会
11月2日	「サマシメ祭り青空カフェ」
11月30日	学習会「治水対策について」
11月12日	「冬の自然観察会と青空カフェ」
2月9日	学習会「定款について」

○その他、月回の定例会議・通信発行・ヒメボタル調査など

会員の声

里山マップをやってみたい。第三河の山奥にある。静い場所を見ました。

子ども達に伝えたい。自然というのを、買ってくるものから育てて、みんなつながっている。みんなつながっている。そんなことに改めて気づかされました。

先程まで引き継いだ。大塚さんや藤羽さん。つなげるのが、思いが。色々あって、歩んでゆきたい。

区画整理について、たくさん勉強してきました。奥が深い。

みんないる所が、こんなにいい所。だんなも。

つど、トクダ、話さ。自然というのを、買ってくるものから育てて、みんなつながっている。みんなつながっている。そんなことに改めて気づかされました。

皆さんと一緒にまちのこと、考えませんか? 会員募集中です!

問い合わせ先 藤羽 0562-46-4380 <http://yokonehirako.jimdo.com/>
横根町平子 加納 0562-47-2595 横根平子のまちづくりを考える会

横根平子のまちづくり通信 第9号

2015年12月発行

横根平子のまちづくり通信

横根平子のまちづくりを考える会 vol.10

今回の10号は盛りだくさん。講演会やヒメボタル幼虫調査、自然観察会をダイジェストでご紹介しつつ、区画整理についても注目です。地権者の方はもちろん、近隣に住む方も、自分たちの住むまちのこれからについて、一緒に考えましょう。詳しくは右ページをご覧ください。

私たちのまちは、こんなまち

11/1 「動物写真家・小原玲さんに学ぶ、ヒメボタルのすべて」特別講演会開催!

アロップでの講演会参加者は70名以上。小原さんはその生態や美しさと共に、「自分がどう生きるか」を考え「身近な緑を守る生き方」と語ってくれました。当日は、「ヒメボタル」の資料も、ニュースとして取り上げられました。下記からご覧ください。
[講演会での写真はこちら] http://www.media-ct.com/movie_detail.php?page=4185

11/22 ~ 11/29 **ヒメボタル幼虫調査を実施。**
データを残すために。
幼虫の生息数を調べることで理解を深め、データを残すことを目的とした今回の調査。先の講演会後、小原さんにまちを見て助言頂くと共に、愛知ホテルの会の深谷豊さん立ち会いの元、全員で実施しました。

10匹の幼虫を抽出!
イカ刺しを入れたフィルムケースのトラップ100個を、考える会員所有の竹林に、1メートルにひとつずつ埋めること一週間、そととケースを開けてみると、中から里々々とした幼虫が10匹も横根平子にヒメボタルがいることが、これで証明されました。この調査結果は、今後、隣接する市有地にも生息する可能性があるため、市役所に提出予定です。

12/12 **初冬の自然観察会と青空カフェ開催。**
参加者は総勢23名。今回も自然観察指導員Tさんと25種類の冬鳥や、多くの木の実を観察。講演会で興味を持って頂いた方も参加していただき、和やかな時間となりました。

まちづくりは、今

シリーズ区画整理 魅力あるまちづくりのために

横根平子地区の土地区画整理事業の事業計画(案)や定款(案)が土地区画整理組合設立準備委員会によって作られ、12月19日(土)に地権者に対して「同意書等に關する説明会」が開催された。

これから区画整理(計画)はどう進められるのでしょうか?

1 同意書を提出するか、しないか(本同意) 対象者は… 地権者
同意の判断は「この事業計画(案)、定款(案)について同意するかどうか」です。
同意する → 提出 同意しない → 提出しない

土地区画整理組合設立に必要な同意率はこの地区ではそれぞれ土地所有権者の85%以上、かつ土地所有面積種類の85%以上です。

85%以上 → 準備委員会が知事へ「設立認可申請」を提出 85%未満 → 区画整理事業は行われません

3 事業計画の縦覧スタート 対象者は… 地権者 区画整理計画地区に隣接する住民 誰でも
利害関係者はこの事業計画を縦覧し、意見書を提出することができます。(土地区画整理法20条の2)
縦覧期間・場所は「おおぶ広報」で公示されます。
縦覧期間として縦覧期間は二週間です。
縦覧期間満了の日の翌日から二週間を経過するまでに、利害関係者は知事に意見書を提出することができます。
この区画整理がこのまちの皆さんにとって「魅力あるまちづくり」になるかどうか 縦覧にはぜひ行きましょう

4 知事へ意見書提出 対象者は… 利害関係者

5 知事の審査
※この間、設立認可はされません
意見書採択→「事業計画の修正命令」が出され、準備委員会は再度事業計画を修正。
意見書不採択→知事はその旨を意見書採択者に通知。その際、設立認可。

設立が認可されると組合が設立され区画整理が始まります。

利害関係者とは… 同意 部分の住民のことです。
利害関係者とは… 区画整理に隣接する人で影響を受ける住民のことです。

問い合わせ先 藤羽 0562-46-4380 <http://yokonehirako.jimdo.com/>
横根町平子 加納 0562-47-2595 横根平子のまちづくりを考える会

横根平子のまちづくり通信 第10号

